

CO₂吸収量91トンを購入 オフセットクレジット

環境省主導

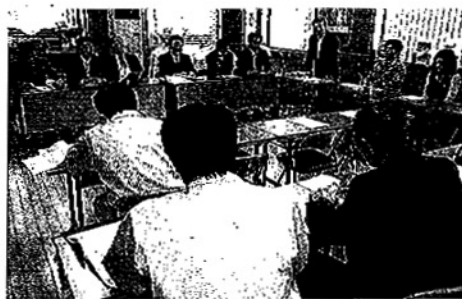
大館北秋田森組や運送、給油会社

森林整備と雇用促進へ

上小阿仁村の
民有林間伐分 県内初、制度の広がり期待

地球温暖化防止のため、環境省が主導するオフセットクレジット（J-V E R）制度で、大館北秋田森林組合、運送、給油会社など北秋田市内や近隣の5団体は、白、間伐などで整備された上小阿仁村の民有林の二酸化炭素（CO₂）吸収量の一部91トンを共同で購入すると発表した。

2011年に導入された「J-V E R」制度は、間伐 証（クレジット）を発行し、によるCO₂吸収量を市 場で取引できるように、第 一 森林整備に充てる仕組み



5団体共同でオフセットクレジットを購入することが説明された報告会（大館北秋田森林組合事務所で）

クレジットを取得するのは同協紳に本所を譲り、同組合、三國商事（本社・能代市ニツ井町）、米代トラック（同）、松田運送（大館市岩瀬）、ほくしんリース（北秋田市綴子）温室効果ガス削減の義務を負う企業として、CO₂削減困難な分を間伐事業に投資し、排出量の削減を試みるもので、地域貢献を図る追



4社に販売済み。今回91トンの販売で、取引できる吸収量は残り800トンとなる。

同森組事務所では日報表や村の職員らが参加。大館勝男組合長は「J-V E R制度の導入は県内初。地元でCO₂を削減する必要があり、雇用創出などで地域貢献にもなる」と挨拶した。

グリーンプラス秋田出張所（北秋田市）の沢田吉宏所長は「地域の雇用促進、森林整備につながる制度が0から1になる。1がさらに県内に広がってほしい」と期待した。

対象車両には「年間使用燃料〇〇%、カーボンプレーツト車両」と書かれたステッカーが貼られることが期待された。

う重機1台の31ポンド（CO₂年間排出量の100%に相当）、三國はタンクローリー、営業車計16台の36ポンド（同25%）、米代、松田はいずれも丸太運搬車1台の各10ポンド（同15%）、ほくしんはサードリースカー1台の5ポンド（同90%）。企業が支払った購入費は、クレジット販売分を行うグリーンプラス（東京）を経て森林管理者に入る。20、24年度に同村仏社、五区役の兼営管理の民有林28社を同組合が間伐し、計1千トンのCO₂吸収量取得を見込む。既に間伐を実施した20、21年度の吸収分300ポンドはグリーンプラスが県内外

削減量は計91トン。内訳は同組合は間伐作業で使